mobile版には新イベント情報が随時更新中

右記のQRコードからアクセス下さい。

8 AUG

せんだいスクール・オブ・デザイン　2011年度春学期 特別講座「復興へのリデザイン」 7. 仮設都市を建設する。
8月27日(土) 13:00▶
講　師　森田　俊作(大和リース株式会社代表取締役社長)　無料　要申込
場所　東北大学工学部センタースクエア DOCK
主催者　東北大学・仙台市
URL　http://sendaischoolofdesign.jp/

9 SEP

東北大学リベラルアーツサロン 第12回「認知科学としての仏教」
9月2日(金) 18:00▶19:45
講　師　宮本　正夫(東北大学大学院国際文化研究科教授)　無料　申込不要
場所　東北大学附属図書館
主催者　東北大学　問合先　TEL 022-217-4977
URL　http://cafe.tohoku.ac.jp/

特別企画展「動物の考古学」関連行事 記念講演会「発掘された動物たち」
9月3日(土) 13:30▶15:30
講　師　設楽　博己（東京大学文学部教授）　無料　要申込
場所　仙台市体育館　研修室　定員　180名
主催者　地底の森ミュージアム　問合先　TEL 022-246-9153
URL　http://www.city.sendai.jp/kyouiku/chiteinomori/event/exhibi1107/

せんだいスクール・オブ・デザイン　2011年度春学期 特別講座「復興へのリデザイン」 8. 環境に応答する。
9月4日(日) 13:00▶
講　師　中谷　礼仁（早稲田大学創造理工学部建築学科准教授）他　無料　要申込
場所　東北大学工学部センタースクエア DOCK
主催者　東北大学・仙台市
URL　http://sendaischoolofdesign.jp/

第19回日本乳癌学会学術総会市民公開講座「乳がんのこと、心のケアのこと、もっと知りたいあなたへ」
9月4日(日) 14:00▶16:00
無料　申込不要
場所　仙台国際センター　大ホール
主催者　第19回日本乳癌学会学術総会　問合先　TEL 022-717-7214
URL　http://www2.convention.co.jp/19jbcs/index.html

せんだいスクール・オブ・デザイン　2011年度春学期 特別講座「復興へのリデザイン」 9. 水際を再生する。
9月10日(土) 13:00▶
講　師　中野　和典(東北大学大学院工学研究科土木工学専攻准教授)　無料　要申込
場所　東北大学工学部センタースクエア DOCK
主催者　東北大学・仙台市
URL　http://sendaischoolofdesign.jp/

「ジェンダー論講座」(4) 労働の場におけるジェンダー
9月10日(土) 13:30▶15:30
講　師　遠藤　恵子（山形県立米沢女子短期大学理事長・学長）　有料　要申込
場所　エル・パーク仙台　セミナーホール　定員　50名
主催者　(財)せんだい男女共同参画財団　問合先　TEL 022-268-8044
URL　http://www.sendai-l.jp/

国宝・大崎八幡宮『仙台・江戸学』 第5期　「描かれた松島」
9月27日(火) 13:30▶15:00
講　師　佐藤　琴（東北歴史博物館副主任研究員）　有料　要申込
場所　大崎八幡宮　祭儀棟　定員　100名
主催者　「国宝大崎八幡宮　仙台・江戸学」実行委員会　問合先　TEL 022-234-3606
URL　http://www.okos.co.jp/oosaki/edogaku/

東北大学サイエンスカフェ　第75回：野菜における生物多様性～ダイコンとカブはどこが違うか～
9月30日(金) 18:00▶19:45
講　師　西尾　剛（東北大学大学院農学研究科教授）　無料　申込不要
場所　せんだいメディアテーク　1階オープンスクエア
主催者　東北大学　問合先　TEL 022-217-4977
URL　http://cafe.tohoku.ac.jp/

性と人権を考える
9月30日(金) 18:00▶20:00
コーディネーター　浅野　富美枝(宮城学院女子大学教授)　無料　要申込
場所　宮城県公文書館　3階　定員　20名
主催者　財団法人みやぎ婦人会館　問合先　TEL 022-299-4530
URL　http://www.fujin-kaikan.or.jp/training/

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略

第14回

名著への旅

『黒い雨』
井伏鱒二 著
新潮文庫

（1970年6月25日　初版発行）

1945年8月6日月曜日、広島市、午前8時15分。

原爆による未曾有の戦禍と不安が、『黒い雨』というタイトルによく表われている。自らも被爆した閑間（しずま）重松の『被爆日記』を中心として話が展開され、妻のシゲ子、養子格として引き取っている矢須子とともに、彼らが被爆直後の大困難時に何を見、どう行動し、いかに生活したか。また、それから数年の後、何が問題になっているのか。見たまま、聞いたまま、感じたままが淡々とした筆致で語られていくのだが、著者の人物描写のうまさは冴え渡っており、重松の言動は生き抜くことへの人間の不屈さと希望の光をさえ感じさせる。

著者は広島県安那郡加茂村（現在の福山市加茂町）の出身であるが、これは唯一の被爆国日本でしか生まれ得ない作品であり、いわゆる「原爆文学」の頂点とされる。1989年、今村昌平監督により映画化され、こちらも高い評価を得ている。

2011年3月11日金曜日、東北地方太平洋沖、午後2時46分。

戦災と天災の違いこそあれ、普段の日常を願う氣持ちはいつの時代でも変わらない。今年の夏は例年にも増して、世の平和と平穏への祈りが日一日と高まっていくことだろう。　（曜）

第2回「まなびのめ」Live版 開催予定！

「まなびのめ」主催の「学び」イベント－まなびのめ Live 版を今年度も開催する予定です。詳細は決まり次第 Web 版等でお知らせいたします。

懸賞

まなびのめクイズ応募方法

はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所②氏名③年齢④職業⑤電話番号⑥クイズの答え２つ⑦「まなびのめ」の入手場所⑧内容についての感想を明記して編集部（下記参照）までご応募ください。なお、お寄せいただいたご感想は匿名にて紙版・Web版に掲載することがございます。正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2011年8月31日 当日消印有効

クイズの正解は締切後、Web版に掲載します。

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。ご注意ください。

学びの庭におじゃまします

次号テーマ：「芸術」
2011年10月5日発行予定

「気」になる「氣」…当社は言葉を組版する職業として、漢字の本来の成り立ちである「本字」を大切にしたいという思いがあり、社名に使われる本字の「氣」を使用することでその思いを表しています。

応募先／問い合わせ先

〒984-0011　仙台市若林区六丁の目西町8番45号
笹氣出版印刷株式会社内「まなびのめ」編集部
FAX 022-288-5551
TEL 022-288-5555
(FAXは24時間受付　電話受付時間10:00～16:00 土・日・祝日除く)
manabinome@sasappa.co.jp

学術の世界と市民をつなぐ情報誌「まなびのめ」第13号／発行日2011年7月5日
企画・編集　笹氣出版印刷株式会社「まなびのめ」編集部／発行　笹氣出版印刷株式会社

まなびのめ 編集部　只野俊裕　佐藤曜　川又進　笹氣義幸　遠藤洋子　菅野保広　伊藤秀平　齋藤麻実　菅野耕平　三上志穂
オブザーバー：寺田征也(東北大学大学院)
協力　株式会社市瀬　有限会社阿部正志製本　株式会社テイクワン

この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用して、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。用紙は適切に育まれた森から生まれたFSC認証紙を使用し、インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。

GREEN PRINTING JFPI P-810004　FSC www.fsc.org MIX Paper from responsible sources FSC™ C005944　VEGETABLE OIL INK　UD FONT

FREE ¥0　ご自由にお持ち帰りください。

仙台合同研究　学術の世界と市民をつなぐ情報誌

まなびのめ

学びの庭におじゃまします

平和

“平和な日本”の中にあって平和を考え続ける

仙台白百合女子大学　人間学部　教授
（平和研究）
矢口　洋生 先生

心理学的には集団が個人より賢明とは言えない

東北大学大学院　文学研究科　教授
（社会心理学）
大渕　憲一 先生

〈行ってみよう！「学び」の場所へ〉
- これからの主な「学び」イベント39件掲載！
- 「学び」イベントに行ってきました
- 名著への旅　『黒い雨』(井伏鱒二)
- 読者の声

図書カード懸賞付クイズあります

季刊誌
第13号
2011.7

Web版は随時更新中！
まなびのめ　検索
http://www.manabinome.com

発行／笹氣出版印刷株式会社

これからの主な

「学び」イベント

有料　無料　要申込　申込不要
▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

ここに掲載する情報は、各研究・教育機関や施設が公開している情報を基に掲載していますので、当社の責任で開催を保証するものではありません。日時、内容に変更がある可能性がありますので、詳しくは各問合先へご確認下さい。

有料・要申込の場合の料金や申込方法など詳細は Web 版に掲載しております。ぜひご覧ください。

定期開催

トワイライトサロン「MA☆（マスター） 土佐誠の宇宙が身近になる話」
毎週土曜日 17:00▶17:45
講　師　土佐　誠（仙台市天文台長）　無料　申込不要
場所　仙台市天文台　オープンスペース　他
主催者　仙台市天文台　問合先　TEL 022-391-1300
URL　http://www.sendai-astro.jp/

開催中

震災復興パネル展「過去に学び、未来につなぐ」
6月7日(火)～8月15日(月) 9:00▶16:45
無料　申込不要
場所　仙台市博物館　1階エントランスホール
主催者　仙台市博物館　問合先　TEL 022-225-3074
URL　http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/topics/shinsai.html

7 JUL

漢詩ゆったり鑑賞講座（7）
7月2日(土)～7月16日(日) 13:00▶16:30
講　師　島森　哲男（宮城教育大学教授）　無料　要申込
場所　宮城教育大学附属小学校　多目的ホールⅡ　定員　70名
主催者　学都仙台コンソーシアム・宮城教育大学　問合先　TEL 022-214-3521
URL　http://www.gakuto-sendai.jp/for_w/satellite_course.html

放送大学宮城学習センター「オープンキャンパス」
7月9日(土) 13:30▶17:00
講　師　今泉　隆雄（放送大学客員教授　東北大学名誉教授）　無料　要申込
場所　放送大学宮城学習センター　定員　50名
主催者　放送大学宮城学習センター　問合先　TEL 022-224-0651
URL　http://www.campus.ouj.ac.jp/~miyagi/

国宝・大崎八幡宮『仙台・江戸学』 第5期　「仙台藩の天文」
7月14日(木) 13:30▶15:00
講　師　黒須　潔（仙台郷土研究会　理事）　有料　要申込
場所　大崎八幡宮　祭儀棟　定員　100名
主催者　「国宝大崎八幡宮　仙台・江戸学」実行委員会　問合先　TEL 022-234-3606
URL　http://www.okos.co.jp/oosaki/edogaku/

特別企画展「動物の考古学」
7月15日(金)～9月19日(月) 9:00▶16:45
有料　申込不要
場所　地底の森ミュージアム　企画展示室
主催者　地底の森ミュージアム　問合先　TEL 022-246-9153
URL　http://www.city.sendai.jp/kyouiku/chiteinomori/event/exhibi1107/

東北大学リベラルアーツサロン　第11回「極寒地で暮らす方法とは？～北極圏トナカイ遊牧民の知恵と技術から学ぶこと～」
7月15日(金) 18:00▶19:45
講　師　高倉　浩樹（東北大学東北アジア研究センター准教授）　無料　申込不要
場所　東北大学附属図書館
主催者　東北大学　問合先　TEL 022-217-4977
URL　http://cafe.tohoku.ac.jp/

第10回ウイルス学夏の学校・みちのくウイルス塾
7月16日(土)～7月17日(日) 13:00▶17:00　9:00▶12:00
講　師　小柳　義夫（京都大学ウイルス研究所・ウイルス病態研究領域教授）他　無料　申込不要
場所　仙台医療センター　管理棟3階大会議室　備考　17日は9:00▶12:00
主催者　仙台医療センター・臨床研究部ウイルスセンター　問合先　TEL 022-293-1173
URL　http://www.snh.go.jp/Subject/26/juku/

アウトプットと第二言語習得
7月16日(土) 17:00▶18:30
講　師　村野井　仁（東北学院大学教授）　有料　要申込
場所　宮城教育大学附属小学校　多目的ホールⅡ　定員　70名
主催者　学都仙台コンソーシアム・東北学院大学　問合先　TEL 022-264-6340
URL　http://www.gakuto-sendai.jp/for_w/satellite_course.html

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略

学びの庭におじゃまします

「平和学」「平和研究」というものがあると知ってから、いつか「学びの庭でおじゃまします」で取り上げたいと考えていましたが、「平和」に思いを馳せることが多いのは日本ではやはり夏だな、ということで今回の号になりました。まずは仙台白百合女子大学の矢口洋生先生に、「平和学」「平和研究」ってどういうものなのか、の概論から、先生の原点であるキリスト教倫理と平和について、お話を伺いました。

“平和な日本”の中にあって平和を考え続ける

「戦争をしていなければ平和だ」とは言えない

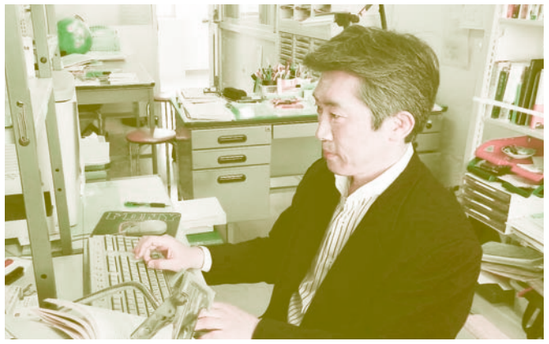
私が研究している「平和学」は、市民の方々にとって決してなじみのある学問とは言えないでしょう。新しい学問分野であることは確かですが、19 世紀にはヨーロッパで研究が始まっていますから、100 年以上の歴史があることになります。

盛んになったのは、1910 年代に起こった第一次世界大戦の後です。平和の実現を目的として、主にヨーロッパの大学で多くの講座が開かれるようになりました。しかしその後、懸念されていた第二次世界大戦が起こってしまいます。日本が降伏して 1945 年に終結した後も、いわゆる「冷戦」の時代が続き、核兵器の応酬で人類が滅びかねない「第三次世界大戦」の危機感を、世界中が共有していました。平和学はこの時期、米国をはじめとする世界の国々に広がり、多くの研究者が議論に参加するようになります。

今では世界中の大学に平和学の講座が設けられていますが、日本はこの動きに遅れてしまいました。「日本平和学会」の設立は 1973 年です。現在でも、日本で「平和」の名がついた講座を開講している大学は、決して多くはありません。それでも、800 ほどある大学のうち 200 から 300 の大学が、平和に関係する授業を行っているとされています。

一方、学会の活動は活発です。私のように平和学を専門としている研究者だけでなく、国際政治を研究している法学者、政治学者、さらには経済学者など多彩な専門家が集まって、盛んな議論が行われています。また核戦争への危機意識から、理系でも原子物理学者や医学系の研究者らが参加していますし、戦争と文学の関係を追求している表現系の研究者らの参加もあります。平和の実現という大きな目的のために、お互いに自分の専門分野の用語の多用を控えながら対話と議論を重ねている、まさに「学際的」な学会だと言えるでしょう。

かつて平和は、「国家間に戦争のない状態」だと考えられていました。しかし近年は「構造的な暴力」が、中心的な問題として取り上げられるようになっています。たとえ他国と交戦状態になくても、国民の多くが飢えや貧困に苦しんでいるような国を「平和だ」と言えるでしょうか。そうした深刻な問題を抱えた発展途上国が、戦争に向かってしまう例は、過去に少なくありませんでした。研究者の間では、平和は「構造的な暴力」を解決することでこそ実現できる、という考え方が大勢を占めるようになっています。



これは、日本と隣国である朝鮮民主主義人民共和国との関係を考えれば、容易に理解していただけることでしょう。「軍備を増強し、米国との同盟関係を強化することで日本の平和を実現しよう」と考える人もいますが、自国・他国を問わず「構造的な暴力」に目を向けることなしに、真の平和を実現することはできないのです。

キリスト教倫理から考える平和のための行動

私はキリスト教倫理への関心から、平和研究の道に進みました。私の名前は、旧約聖書の「ヨブ記」に由来しています。札幌で米文学を講じていた父による命名で、子どもの頃からキリスト教の文化に親しんできました。

キリスト教には、平和を追求するイメージがあります。しかし実際には、キリスト教徒が多くを占める国も軍備を持ちますし、戦争もします。実際、先の第二次世界大戦の際も、キリスト教徒は「武器を取って戦うべきか」という選択を迫られることになりました。はたしてキリスト教の倫理では、戦争と平和についてどう考えているのかという問題意識が、私の出発点になったのです。

欧米の歴史を見れば中世までは、王がキリスト教徒であり、キリスト教が国教とされているという意味で「キリスト教国」と呼びうる国家が存在しました。しかし他の宗教を国教とする国との間で戦争を繰り返したばかりでなく、しばしばキリスト教の内部でも、宗派間の対立が武器を用いた紛争に発展してきました。

米国を含めて、現代ではキリスト教徒が多く住む国はあっても、キリストの教えに基づいて運営されている国はありません。しかし宗教的な対立は、相変わらず深刻な紛争を引き起こしています。私は神学を学びながら、戦争と平和の問題をどう理解し、どう生きるべきなのかということを考え続けていました。

20 代の後半、米国に留学した際に、私はこの問題に正面から向き合い、紛争の解決に積極的に取り組んでいる人々に出会うことができました。平和を強く願うキリスト教徒の市民たちが、実際に紛争が起きている地域や起こりそうな地域に入り、時には身を挺して軍事行動に反対する活動を行っていたのです。私は驚き、感動しました。

その団体の人々は、たとえば 2003 年に発生したイラク戦争の際、米国からイラクに入ってイスラム教徒との対話を行いました。時には自国によって攻撃される可能性が高い地域に入って、対話の継続を訴えることさえします。こうした「非暴力直接介入」と呼ばれる行動によって、紛争状態にある双方の国の国民に、和解と平和を訴えるのです。

一般にキリスト教徒は、国よりもずっと身近で小さい単位である、教会を母体として生活を送っています。時の政府の方針とは違った考え方で行動する「非暴力直接介入」は、国という単位を超えて、教会同士、キリスト教徒同士がつながり合うことによって可能になっていたのです。

一人ひとりの「平和観」の違いが出発点

「非暴力直接介入」は、個人の思いつきによる無謀な行動ではありません。危険な場所へと向かう人々は、自らの身を守るためのトレーニングを積んでいます。また、ふだんは通常の市民生活を送りながら、年に何度かのトレーニングに参加している人もいます。また、こうした人々を資金面で支える仕組みも整っていました。

こうした活動に取り組んでいる人々は、米国のキリスト教徒の中でも確かに少数派です。しかし広く認知はされていて、共感も得られています。もちろん不幸にも、紛争状態にある現地で死傷する人もゼロではありませんが、こうした活動は、英米をはじめヨーロッパへも広がっています。

今の日本では平和について具体的プランを考える時間を持つこと自体が難しいのかもしれません。しかし平和について考えることを、研究者や政治家だけに任せてしまってはならないということは、大切なポイントとなるはずです。

私が大学で行っている「国際平和論」では、学生たちに平和のイメージを問うことから授業が始まります。平和のイメージは一人ひとりみんな違います。しかし、これこそが出発点でなければなりません。違いを認め、互いの「平和観」を検証した上で、私たちがどこを目指すべきかを話し合います。戦争や「構造的な暴力」をなくすにはどうすれば良いかを考えることは、「平和な日本」に暮らしているはずの私たちにとっての、「真の平和」や「より豊かな生き方」について考えることにつながっていくはずです。

明治維新で生まれた近代日本は、成立後、ほとんど常に他国と緊張関係にあり続け、また戦争を繰り返してきました。第二次世界大戦の終結まで 70 年以上にも及んだその歴史は、戦後 66 年が過ぎた今も忘れてはなりません。

また 1945 年以降も、日本は生まれ変わって平和国家として歩んできた、と私たちは考えがちです。しかし日本の侵略を受けたアジアの国々の人々は、決してそうは考えていません。広島・長崎に原爆が投下された悲劇も、米国では「戦争をあれ以上長引かせないためには必要だった」と考えている人の割合の方が多いのです。私たちは他国のそうした人々とも、認識の違いを認め合った上で、共に平和について考えなければならないのです。

終戦記念日である 8 月 15 日やその前後は、あらためて平和について考える良い機会です。今の日本が戦争状態にないことを喜ぶだけでなく、日本が通ってきた道を思い、私たちのこれからの生き方を考えてみていただきたいと思っています。

（取材＝2011 年 5 月 31 日／仙台白百合女子大学 1 号館 1 階・応接室にて）

仙台白百合女子大学　人間学部　教授
専攻＝平和研究

矢口　洋生 先生

《プロフィール》
（やぐち・よぶ）1960 年東京都生まれ。北星学園大学文学部英文科卒業。米国ゴーシェン大学大学院に留学。平和研究修士。英オックスフォード大学客員研究員、仙台白百合女子大学人間学部助教授などを経て、2007 年より現職。

懸賞

図書カードを当てよう！ まなびめクイズ

正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.1　平和に関する授業を行っている大学は、日本ではいくつくらいある？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。大渕憲一先生の記事もご覧ください。

応募方法

はがき、FAX、E-mail のいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え２つ、⑦「まなびめめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。

※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2011年8月31日 当日消印有効

学びの庭におじゃまします

「平和・争いごと」は人間の営みだから、心理学から「平和」の問題に迫ってみたい、という声が編集部内であがりました。そこで調べてみると、ピッタリの研究をされている先生が東北大学に。研究者インタビューのお二人目、東北大学・大渕憲一先生に、社会心理学からアプローチする「平和」のお話を伺い、これからの暮らしで留意した方がよい点をいろいろと教えていただきました。

懸賞 図書カードを当てよう！ まなびめクイズ 正解者の中から抽選で3名様に図書カード1000円分をプレゼント

Q.2 「内集団びいき」の基にある人間の基本欲求である個人心理を何という？

※応募にはQ1とQ2両方の答えが必要です。矢口洋生先生の記事もご覧ください。

応募方法 はがき、FAX、E-mailのいずれかで、①住所、②氏名、③年齢、④職業、⑤電話番号、⑥クイズの答え２つ、⑦「まなびめ」の入手場所、⑧内容についての感想を明記して編集部までご応募ください。

※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
※応募いただいたお客様の個人情報は弊社主催のイベント案内、連絡及び発送に限り利用させていただきます。

【応募締切】2011年8月31日 当日消印有効

心理学的には集団が個人より賢明とは言えない

心理学の立場から紛争に光を当てる

心理学は、市民の皆さんにとっても関心の高い学問のようです。東北大学の学生たちもそうで、文学部は２年に進級する際に専門を選ぶのですが、心理学は毎年希望者が定員を上回っています。学校にスクールカウンセラーが入るようになったこともあって、かつてに比べると、心理学を身近に感じていただいているのでしょう。また東日本大震災でも、心理学を学んだ専門家が、被災された方々の心のケアにあたってきました。しかし実は、カウンセリングなどを行う「臨床心理」だけが心理学ではありません。

心理学は、実はたいへん幅の広い学問です。個人の心の問題を扱うだけでなく、私たちの暮らす社会のありとあらゆる場面が、心理学の研究対象になると言っても過言ではありません。臨床心理のように個人の心を研究する心理学に対して、複数の人間の心の動き、集団の心理を対象とするのが、私の専門である「社会心理学」です。

マラソンでは、最後まで競り合いが続いた場合と、途中から独走する選手が出た場合とでは、しばしば前者の方に良い記録が生まれます。選手は本来どんな展開でも自分の全力を尽くしているはずですが、これは競争が、心理的に良い効果をもたらした例だと言うことができるでしょう。周囲に人がいる方が勉強もはかどったり、大勢でご飯を食べると美味しく感じたりするのも、集団ならではの心の動きです。社会心理学とは、例えばこうした心理を科学的に解明しようとする学問なのです。

東北大学大学院　文学研究科　教授
専攻＝社会心理学

大渕　憲一 先生

《プロフィール》
（おおぶち・けんいち）1950年秋田県生まれ。東北大学文学部卒業。同大学院文学研究科博士課程中退。博士（文学）。東北大学文学部助教授などを経て、1997年より同教授、2000年より現職。著書に『謝罪の研究：釈明の心理とはたらき』（東北大学出版会）、『攻撃と暴力：なぜ人は傷つけるのか』（丸善ライブラリー）など。

私は社会心理学の中でも、特に紛争や葛藤について研究を重ねてきました。しかし紛争・葛藤にもいろいろあります。指導してきた大学院生たちの関心は非常に幅広く、いわば「戦争から夫婦喧嘩まで」が、私たちの研究対象になり得るのです。

社会心理学には大きく２つの系譜があって、集団を社会学的に扱う研究を「マクロな社会心理学」、主に個人対個人の関係を扱う研究を「ミクロな社会心理学」と呼んでいます。民族間や国家間といった集団間の葛藤についてはマクロな、夫婦間や友人間の葛藤についてはミクロなアプローチを行うことになるわけです。その中間的なアプローチを行うこともあって、例えば上司と部下の関係といった組織内葛藤の問題がこれにあたります。

平和・戦争という大きなテーマに対しては、政治学、歴史学などさまざまな学問分野から光が当てられてきました。それでは社会心理学の立場からは、平和・戦争についてどういうことが分かるのでしょうか。

集団になるとブレーキはゆるむ

第一に社会心理学では、「人の集団は黙っていても対立する」という考えが支持されています。なんら合理的な根拠のない、任意の分け方であったとしても、人は自分と同じグループに属する人に親近感を抱き、もう一方のグループに対抗意識を覚えてしまうのです。これを「内集団びいき」と呼びます。健全な競争意識で切磋琢磨しているうちは良いのですが、何かをきっかけに対立が深まると、たちまちエスカレートして「相手は悪だ」という猜疑（さいぎ）心にとりつかれてしまうことが多いのです。

これは実は、個人心理である「自尊心欲求」に基づいています。私たちは誰でも「自分には価値がある」と思っていますし、そのことを他人に認めてほしいと願っているものです。人間の持つ、基本的な欲求であると言ってもよいでしょう。そして人は、「自分が属している集団」に、自分の価値の根拠を置こうとします。個人の自尊心は、属している集団の地位の高さによって満たされる、ということがしばしばあるのです。

例えば海外で日本のサッカー選手が活躍すると、わがことのようにうれしく、また誇らしく感じます。もちろん、自分や自分の属する集団にプライドを持つこと自体は問題ありません。しかしそこには、必ず他の集団と張り合う氣持ちが隠れています。このことを、集団をまとめる責任者、国や民族であれば為政者はよく知っていなければなりません。ひとたび「愛国心」が燃え上がると、それを制御することは非常に困難なのです。

第二に私たちは、個人の場合には抑制される自尊心の表明が、集団になるとブレーキが利かなくなるということも知っておく必要があります。個人では「自分はすごい」と口にしない人でも、集団として集まると「自分たちの集団はすごい」と思ってしまうし、口にしてしまうのです。これが時に他の集団を劣ったものとみなすことにつながり、ひいては平和を脅かす素地になっていきます。

先の大戦での行為から、日本は政治家の発言などが近隣諸国から批判を受けやすい立場にあります。しかし、これがブレーキとして利いてきたために、深刻な事態を招かずに済んできたと考えることもできるのです。

先ほど、たとえ合理的な理由のない分け方であっても「内集団びいき」が起こる、とお話しました。実は現代の私たちが当たり前だと思っている国や民族といった枠組みも、歴史を見れば、偶然や政治的な判断によるところが大きいことは明らかです。アフリカの国境線の引かれ方などは、その典型だと言うことができるでしょう。

“三人寄れば文殊の知恵”は心理学的には疑問

第三に、集団の決定は個人の決定よりも正しいと思われがちですが、これは社会心理学の研究によれば否定されています。集団の意思決定は、個人の決定よりも慎重ではない方向、リスキーな方向に流れる傾向にあります。集団では、リスクを軽視した楽観的で景氣の良い意見が出ると、迎合が起こるからです。

仮に「同じくらいの賢さ」の人が五人いたら、議論はしても、最後の決定は一人でした方が間違いが少ないことが、実験や研究から明らかになっています。“三人寄れば文殊の知恵”という言葉がありますが、社会心理学的には大いに疑問です。もちろん、情報を集めて分析するには人数が多い方が有利でしょう。しかし決定は別です。合議制による決定は個人の決定に質で劣るだけでなく、責任の所在という点でも問題が大きいのです。これは政治体制や企業をはじめとする、日本の多くの組織が持つ弱点でもあると言えるでしょう。

社会心理学の中でも、紛争や葛藤を扱う研究は、まだ新しい分野です。厳密な意味では、「平和の心理学」や「戦争の心理学」

は、まだ確立しているとは言えません。しかし2001年にニューヨークで起こった「9・11」以降は、急速に注目を集めるようになりました。欧米の心理学者の中には、紛争の現地に赴いて研究し、解決に寄与しようとする人も増えています。

東北大学でも、紛争の解決をテーマにシンポジウムを開催し、北アイルランド紛争の問題に取り組んでいる米国の研究者を招いて報告を聞きました。一人は、対立している集団間でも、個人レベルでの友好的な接触が増えれば、たとえそれが友人・知人を介した間接的なものであったとしても態度の軟化につながると報告しました。一方で、異なる民族が混じり合っている地域に住む人々は、同じ民族が固まっている地域に住んでいる人々に比べて、日常的に感じているストレスが高いという発表も行われました。

多くの外国人が暮らし、働くようになった「国際化した日本」の今後にとって、前者は希望が持てる報告です。しかし後者は、私たちがこれから考えなければならない問題の難しさを示していると言えるでしょう。

紛争を避け、あるいは平和を維持するために社会心理学の立場から言えるのは、「まず互いに譲ろう」ということです。集団同士の紛争は「0か100か」という議論に傾きがちですが、相互の譲歩なしに解決することは絶対にあり得ません。

これまでは政治の意思決定に心理学者が参画して意見を述べたり、社会心理学の知見が国際紛争の解決のために活用されたりすることはほとんどありませんでした。しかしこれからは国際紛争に限らず、東日本大震災によって発生した問題の解決策を検討する場など、政治的な場においても、心理学の立場から発言する必要があると考えるべきなのかもしれません。

（取材＝2011年5月25日
／東北大学文学研究科研究棟２階・研究科長室にて）

Web版はより多くの情報を
随時更新しています。

まなびのめ 検索

http://www.manabinome.com

7 JUL

せんだいスクール・オブ・デザイン　2011年度春学期 特別講座「復興へのリデザイン」 4. 歴史を伝承する。
7月18日(月) 13:00▶
講　師　足立　裕司（神戸大学大学院工学研究科建築学専攻教授）他　無料　要申込
場所　東北大学工学部センタースクエア DOCK
主催者　東北大学・仙台市
URL　http://sendaischoolofdesign.jp/

東北大学サイエンスカフェ　第73回：衛星リモートセンシングによる海洋観測最前線～宇宙から見た仙台湾～
7月22日(金) 18:00▶19:45
講　師　川村　宏（東北大学大学院理学研究科教授）　無料　申込不要
場所　せんだいメディアテーク　1階オープンスクエア
主催者　東北大学　問合先　TEL 022-217-4977
URL　http://cafe.tohoku.ac.jp/

性と人権を考える
7月22日(金) 18:00▶20:00
コーディネーター　浅野　富美枝（宮城学院女子大学教授）　無料　要申込
場所　宮城県公文書館　3階　定員 20名
主催者　財団法人みやぎ婦人会館　問合先　TEL 022-299-4530
URL　http://www.fujin-kaikan.or.jp/training/

せんだいスクール・オブ・デザイン　2011年度春学期 特別講座「復興へのリデザイン」 5. 地域を再興する。
7月23日(土) 13:00▶
講　師　戸田　公明（大船渡市長）他　無料　要申込
場所　せんだいメディアテーク　1階オープンスクエア
主催者　東北大学・仙台市
URL　http://sendaischoolofdesign.jp/

社会における健康増進と公衆衛生の役割
7月23日(土) 13:00▶14:30
講　師　鈴木　寿則（仙台白百合女子大学講師）　無料　要申込
場所　東北工業大学一番町ロビー　4階ホール　定員 40名
主催者　学都仙台コンソーシアム・仙台白百合女子大学　問合先　TEL 022-374-4475
URL　http://sendai-shirayuri.ac.jp/laboratory/course_other/

記念講演「山田音羽子とお国替絵巻」
7月23日(土) 13:30▶
講　師　山田　秀穂（音羽会会長）　無料　申込不要
場所　七ヶ宿町活性化センター　定員 150名
主催者　七ヶ宿町水と歴史の館　問合先　TEL 0224-37-2739

仙台の住宅地　―これまでとこれから―
7月23日(土) 15:00▶16:30
講　師　石坂　公一（東北大学大学院工学研究科教授）　無料　要申込
場所　東北工業大学一番町ロビー　4階ホール　定員 30名
主催者　学都仙台コンソーシアム・東北大学　問合先　TEL 022-795-3925
URL　http://www.gakuto-sendai.jp/for_w/satellite_course.html

近未来の新しい光「テラヘルツ光」 ―くらしを変えるテラヘルツ光の魅力と広がる応用―
7月23日(土) 17:00▶18:30
講　師　南出　泰亜（独立行政法人理化学研究所）　無料　要申込
場所　東北工業大学一番町ロビー　4階ホール　定員 40名
主催者　学都仙台コンソーシアム・独立行政法人理化学研究所　問合先　TEL 022-228-2111
URL　http://www.gakuto-sendai.jp/for_w/satellite_course.html

ひらめき☆ときめきサイエンス　【自然のパズルを楽しもう！～超伝導の謎を解く！～】
7月30日(土) 10:00▶17:00
講　師　内山　哲治（宮城教育大学教育学部准教授）　無料　要申込
場所　宮城教育大学　備考　対象：小学5,6年、中学
主催者　宮城教育大学　問合先　TEL 022-214-3931
URL　http://www.jsps.go.jp/hirameki/ht23000/ht23018.pdf

「ジェンダー論講座」(1)　ジェンダーとは　～今、あなたが感じていること
7月30日(土) 13:30▶15:30
講　師　遠藤　恵子（山形県立米沢女子短期大学理事長・学長）　有料　要申込
場所　エル・パーク仙台　セミナーホール　定員 50名
主催者　(財) せんだい男女共同参画財団　問合先　TEL 022-268-8044
URL　http://www.sendai-l.jp/

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略

参加体験記　「学び」イベントに行ってきました

＜まちなか美術講座＞
■「21世紀魔女」岸本清子
講師　宮城県美術館学芸委員　三上　満良　氏
2011年2月26日（土）13:00～14:30　東北工業大学一番町ロビー 4F ホール

岸本清子（さやこ）は、自ら21世紀魔女と名乗って過激なパフォーマンス活動を行った前衛美術家です。大学では、日本画を専攻していましたが1960年代に活動を始めたネオ・ダダ・オルガナイザー（略称ネオ・ダダ）への参加が、その後の人生を変えたようです。ネオ・ダダは、廃材などを使って表現活動を行った前衛美術家グループの集まりで、その当時の記録写真を見ると過激さが伝わってきます。岸本清子は、そのなかでも唯一の女性アーティストで男性に負けず劣らず個性的な作品を発表していたそうです。その後は、一時活動を休止し1980年代に入ってから21世紀魔女宣言して街頭やステージで主義主張を訴えながらパフォーマンス活動を始めました。

解説によると魔女宣言の内容は、難解すぎるようで実は単純明快なことを言っているのではないかということでしたが、自分には理解しがたいのが正直な感想です。パフォーマンス活動が、目立ちますが、絵にも強い個性が表れ空飛ぶ猫シリーズは、共通して猫の目から光線のような光が発せられ、これは目力を強調しているようです。また、レオナルド・ダ・ヴィンチの構図を借りた最後の晩餐は現代文明を諷刺したもので屏風絵になっているのが面白く日本画を専攻した岸本らしい作品と言えるでしょう。紹介された作品を見て実に作品の幅が広いことが分かりました。

最後に、講座では1983年に雑民党から参議員選挙に立候補した時の政見放送の映像が流されました。主張する内容は、やはり難解な部分もありますが一つ一つの言葉には魂がこもっているような力強さがあり、これが過激なパフォーマンスを生んでいるエネルギーだと感じました。晩年は、癌と闘いながら最後まで病床で描き続けたアーティストとしての情熱には感心しました。

東日本大震災で体験記を書くのを諦めましたが、ある時部屋の掃除をしていたら岸本清子の企画展で買った図録が見つかり、これは書かねばと思い今に至りました。　（仙台市泉区・男性　H.M.）

＜東北大学金属材料研究所講演会［2011年春季］特別講演2＞
■『科学コミュニケーションの戦略－「伝える」から「伝わる」へ－』
講師　京都大学大学院人間・環境学研究科　教授　鎌田　浩毅　氏
2011年5月24日（火）14:45～15:45　東北大学金属材料研究所2号館講堂

研究者向けの講演会のようでしたが一般聴講も可だったので聴きにいってみました。

鎌田先生は、最近テレビでもよく見かける、奇抜なファッションが印象的な方ですが、そのファッションは元々学生の講義離れを防ぐための方策だったとのこと。第1回の講義では400人全員が来るのに、回数を重ねるうちに段々と出席者が減っていく、ということが京都大学でも多いようで、「今日の先生のファッションはどんなのだ？」という興味をひいて、まずは講義室に来てもらおうと考えた、とのこと。それは「つかみ」であって、そこから話にひきこむ術もいろいろと駆使するのでしょう。

初めのころは学生の興味も知識レベルも考えずに、学会発表のような内容で講義を進めて失敗した、という先生でしたが、「相手の関心」に関心を持つことを基本に、わかりにくい専門用語を使わない、ビジュアルで見せる、質問・感想・意見を回収し、即授業の中で応えていく、などたくさんの工夫をしているんですね。90分の講義を、集中力がもつ15分ずつ6ブロックにして組み立てることは、TVプロデューサーの話から学んだとか。

研究者が専門分野以外の人たちに研究のことを伝える活動を「アウトリーチ（啓発・教育活動）」というそうで、その目的には、（1）研究資金の獲得、（2）後継者の育成、（3）一般社会への認知などがあるとのことですが、学生への講義は（2）にあたります。先生の専門は「地球科学」「火山学」ですが、最近は高校で「地学」を履修せずに大学に進む人も多いそうで、大学での一般教養講義だけでなく、高校や小・中学校への出前授業がとても大事と思っている、とのこと。（3）との関わりでは、地震・火山列島の日本に住むからには、「地球科学」「火山学」でわかってきたことを多くの市民に知っていてもらい、人生設計の中で考慮してほしいという願いを持っていることが、話を通して強く感じられました。

相手にわかってもらえるように話す、というのは「科学」に限らず、家庭や職場などにおいてもコミュニケーションの基本ですよね。そのためにいろいろと手を尽くすことが本当に大事なんだなあ、と実演で教えていただきました。　（仙台市若林区・男性　逢戸利一）

＜企画展＞
■『火災の科学－江戸の火災から高層ビルの火災まで－』
2011年5月18日（水）～8月8日（月）10:00～16:00
東京理科大学近代科学資料館

東京理科大学近代資料館の企画展「火災の科学」を見学してきました。東京理科大学は、2005年に火災科学研究センター実験棟を竣工しました。大学に付属する火災科学研究専用施設の中で世界トップレベルの規模と機能をもつそうです。また、世界で初めて「国際火災科学研究科」を2010年に設置しています。

今回の展示はそうした活動の集大成の報告の場ともいえるものでした。江戸時代から現代までの歴史的に貴重な火災の資料の展示がありました。その他、火災科学の研究者の紹介、火災報知器の煙実験の体験コーナー、火災科学に関するビデオ視聴コーナーなど火災に関する様々な展示がありました。

一番興味深かったのは、『東日本大震災の津波と火災』現地調査報告会の展示でした。東日本大震災では、1都10県で324件もの火災が発生したそうです。

火災に関しては科学的に解明されていないことが多く、火災現象を解明し、安全を守るための技術をつくることが重要とのことでした。
（東京都・男性　S.Y.）

読者の声

第12号へもたくさんのお便りが届いています。ほんの一部をご紹介。

第12号　「給食」

「まなびめ」を読んで驚いたのが「学校給食」というものはただのお昼ご飯ではなく、さまざまな役目を担っているということです。なるほど、確かに考えてみれば、地産地消や季節に合わせた食物を使うなど、そういうものを知らず知らずのうちに学ぶことができていました。
（岩沼市・17歳　女性）

病院・福祉施設の給食は、逆にこれからの人生でお世話になることも多くなると思います。今後どうなっていくのか、期待も込めて読みました。勉強になりました。　（仙台市青葉区・30歳　女性）

食についてのお話とてもよかったです。その土地（今、住んでいる）でとれた野菜やお米を食べて元氣ですごすことが出来て、今は幸福を感じています。又、「まなびのめ」楽しみにしています。
（七ヶ宿町・47歳　女性）

本12号のテーマ“給食”、教えられること多々ありました。今後、かみしめながら三度の食事にむきあいたいと思います。
（仙台市太白区・73歳　男性）

まなびめの色使い

襲色目（かさねのいろめ）
袷仕立て（あわせしたて）された衣服の表地と裏地の配色で平安貴族の雅な色。四季折々の変化をその様相の比喩表現によって色彩として感じ取ってきた日本人が作り上げてきた配色法。第13号・夏／「破菖蒲」（ha syōbu）。

第6回「文字・活字とのふれあいDay」開催のお知らせ

笹氣出版印刷株式会社では毎年「文字・活字文化の日」にちなみ、皆様に広く文字・活字や印刷のことにふれていただけるイベントを開催しております。今年も下記日程で開催しますので、ぜひ奮ってご参加ください。
日程：2011年**10月21・22日**（金・土）　9:30～16:00
場所：笹氣出版印刷株式会社内　（仙台市若林区六丁の目西町8番45号）
入場無料
※お問い合わせは裏表紙の「問い合わせ先」と一緒です。詳細は追って当社Webページにてご案内いたします。

これからの主な「学び」イベント

有料　無料　要申込　申込不要
▲このマークはイベント参加についての有料・無料または事前申込の有無について記しています。

8 AUG

特別企画展「動物の考古学」関連行事　SMMAクロストーク「地底の森×八木山動物公園」
8月6日(土) 11:00▶12:00
講　師　佐藤　祐輔（地底の森ミュージアム学芸員）他　有料　申込不要
場所　地底の森ミュージアム　企画展示室
主催者　地底の森ミュージアム　問合先　TEL 022-246-9153
URL　http://www.city.sendai.jp/kyouiku/chiteinomori/event/exhibi1107/

富沢講座「春日社古墳の遺物について」
8月7日(日) 14:00▶
講　師　篠原　信彦（地底の森ミュージアム館長）　有料　申込不要
場所　地底の森ミュージアム
主催者　地底の森ミュージアム　問合先　TEL 022-246-9153
URL　http://www.city.sendai.jp/kyouiku/chiteinomori/event/

国宝・大崎八幡宮『仙台・江戸学』第5期「キリシタン禁制史における東国と西国」
8月10日(水) 13:30▶15:00
講　師　村井　早苗（日本女子大学文学部史学科教授）　有料　要申込
場所　大崎八幡宮　祭儀棟　定員 100名
主催者　国宝大崎八幡宮　仙台・江戸学」実行委員会　問合先　TEL 022-234-3606
URL　http://www.okos.co.jp/oosaki/edogaku/

せんだいスクール・オブ・デザイン　2011年度春学期 特別講座「復興へのリデザイン」 6. 情報を共有する。
8月20日(土) 13:00▶
講　師　渡邉　英徳（首都大学東京システムデザイン学部准教授）他　無料　要申込
場所　東北大学工学部センタースクエア DOCK
主催者　東北大学・仙台市
URL　http://sendaischoolofdesign.jp/

「ジェンダー論講座」(2) 今、必要な女性のリーダーシップ
8月20日(土) 13:30▶15:30
講　師　ノルウェーに学ぶ会　有料　要申込
場所　エル・パーク仙台　セミナーホール　定員 30名
主催者　(財) せんだい男女共同参画財団　問合先　TEL 022-268-8044
URL　http://www.sendai-l.jp/

富沢講座「土器のあれこれ」
8月21日(日) 14:00▶
講　師　渡部　弘美（地底の森ミュージアム学芸室長）　有料　申込不要
場所　地底の森ミュージアム
主催者　地底の森ミュージアム　問合先　TEL 022-246-9153
URL　http://www.city.sendai.jp/kyouiku/chiteinomori/event/

「ジェンダー論講座」(3)　今、DV被害に向き合う　～平時と非常時の境界を越えて
8月26日(金) 13:30▶15:30
講　師　戒能　民江（お茶の水女子大学客員教授・名誉教授）　有料　要申込
場所　エル・パーク仙台　セミナーホール　定員 50名
主催者　(財) せんだい男女共同参画財団　問合先　TEL 022-268-8044
URL　http://www.sendai-l.jp/

東北大学サイエンスカフェ　第74回：ノーベル賞のケミストリー～「クロスカップリング」が拓く有機合成化学～
8月26日(金) 18:00▶19:45
講　師　大井　秀一（東北大学環境保全センター教授）　無料　申込不要
場所　せんだいメディアテーク　1階オープンスクエア
主催者　東北大学　問合先　TEL 022-217-4977
URL　http://cafe.tohoku.ac.jp/

性と人権を考える
8月26日(金) 18:00▶20:00
コーディネーター　浅野　富美枝（宮城学院女子大学教授）　無料　要申込
場所　宮城県公文書館　3階　定員 20名
主催者　財団法人みやぎ婦人会館　問合先　TEL 022-299-4530
URL　http://www.fujin-kaikan.or.jp/training/

特別企画展「動物の考古学」関連行事　SMMAクロストーク「地底の森×八木山動物公園」
8月27日(土) 11:00▶12:00
講　師　佐藤　祐輔（地底の森ミュージアム学芸員）他　有料　申込不要
場所　地底の森ミュージアム　企画展示室
主催者　地底の森ミュージアム　問合先　TEL 022-246-9153
URL　http://www.city.sendai.jp/kyouiku/chiteinomori/event/

※登場者（講師、演者、担当者）については敬称略